

# JAERA

# NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言/JAERAリサイクル技術部会(RT部会)の取組み紹介 … P1,2 □日本自動車工業会 資源回収インセンティブ制度説明会を開催 … P2  
 □千葉県・JARC・JAERA 自動車リサイクル適正処理に向けた事業者サポート研修会を開催 … P3  
 □第7回クルマのリサイクル作品コンクール表彰式/(一社)JARAグループ・(株)JARA 総会懇親会/(一社)SPN総会懇親会/  
 宮城県支部で阿部参与が講演… P4 □2024年度 駆動用HV/バッテリー共同出荷事業2月出荷状況と今期累計/  
 2月新車販売・使用済自動車発生台数 … P5 □鉄スクラップ最新情報 … P6 □行事予定・お知らせ/編集後記 … P7

vol.180

## JAERAリサイクル技術部会(RT部会)の 取組み紹介

01

部会紹介シリーズ第3弾。今回はリサイクル技術部会の現在の取組みについてご紹介いたします。

### リサイクル技術部会

(Recycle Technology : 通称 “RT 部会”)

#### 【部会構成】

佐々木 健二(岡山県)三木 康弘(徳島県)木内 雅之(千葉県)伊地知 志郎(鹿児島県)  
有原 良(東京都)

#### 【主な活動内容】

- ・自動車リサイクル士講習会の企画・運営
- ・自動車リサイクル士制度の価値向上及び普及活動

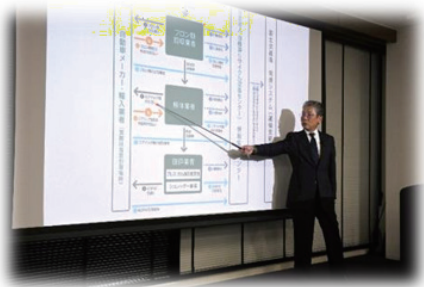
RT部会は、自動車リサイクル士制度のコーディネートに加え、国や自治体、自動車リサイクルに関係する方々と意見交換などを行いながら、この制度の価値向上と全国への普及活動を担っています。

#### ■RT部会より一言



日々活動を行っています。制度の更なる普及のため、会員の皆様のお力添えをお願いすることあると思いますが、引き続きどうかよろしくお願ひします。」

「自動車リサイクル士は、業界の発展や循環型社会、遵法精神や適正処理の意識、不適正処理の撲滅、そして安全作業及び衛生管理の徹底促進など全てに貢献する“自動車リサイクル業における模範となる人材”です。我々は自動車リサイクル士を認定・育成・普及するため、



## 巻頭言

今年は暖冬と言われながらも、度々の大寒波で気温差が10℃以上となる時があり、健康な方でも体調を崩しやすいようですので、合言葉のように「健康第一」と声を掛け合っています。

寒暖定まらない中ですので皆様もお身体ご自愛ください。

4月と言えば、「入学式」や「入社式」、大きなランドセルを背負った子ども達やフレッシュな若者達が目につきます。

弊社も4月より1名入社が決まり、早速、中堅で先輩社員の張り切った指導が始まりました。それを見ている周りもホッコリとして温かな春風のような雰囲気が社内を満たしています。新入社員の大きな挨拶の声、掃除を積極的にする姿に、私達先輩も身が引き締まる思いです。

〈広報部会 木村 香奈子〉

#### 《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
広報部会長 田村 幸男

#### 《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目11-3  
虎ノ門アサヒビル3階  
TEL: 03-3519-5181  
FAX: 03-3597-5171  
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp  
HP: http://www.elv.or.jp/

# ～RT部会より～ 2024年度自動車リサイクル士講習会 と2023年度講習会のご報告

# 01

## ■2024年度自動車リサイクル士講習会について

2024年度自動車リサイクル士講習会は、今年度同様の形式で予定しております。スケジュールなど詳細が決まりましたらニュースレターにてご案内いたします。なお、この講習会は自動車解体業以外の方も受けられますので、ご検討中の方は是非ご受講ください。

新規講習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■講習会→WEBで視聴（期間中いつでも視聴）</li> <li>■修了試験→会場受験（札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・岡山・福岡・沖縄）</li> </ul>
更新講習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■講習会→WEBで視聴（指定の日時に視聴）</li> </ul>

## ■2023年度講習会の結果報告

今年度は全国で262名が受講し、新たに245名の自動車リサイクル士が誕生しました。今回は全損車両処分の事務代行を行っている方など業界外からの受講も目立っており、また、制度の周知を図るため自治体＆関係団体向けに実施した講習会では、国・自治体の担当者や自動車メーカーの方など計171名と過去最多の受講者となりました。

	受講者数
新規講習会	263名※2013年以降最多
更新講習会	51名
自治体・関係団体向け講習会	171名※過去最多

今回自治体に行ったアンケートでは、この自動車リサイクル士を既に「引取業・フロン類回収業の登録・更新の際に必要なとなる、十分な知見を有することを証する資格」として採用しているという回答が10自治体あり、加えて、新たに4つの自治体が採用を検討しているようです。

また、解体業の許可/更新の際に必要な能力要件や基準として自動車リサイクル士を活用する余地があるという回答が15自治体からあり、自治体からも自動車リサイクル士へのニーズが高まっていると考えられます。今後、自動車リサイクル士制度の更なる普及活動が必要となってくるため、リサイクル技術部会を中心とした活動を引き続き行っていきます。



# 日本自動車工業会 資源回収インセンティブ制度説明会を開催

# 02

2024年3月26日(火)、日本自動車工業会(JAMA)による「解体事業者向け資源回収インセンティブ制度説明会」がWEB開催されました。

この説明会では、経済産業省及び環境省が2022年3月に取りまとめた「使用済自動車に係る資源回収インセンティブガイドライン（中間とりまとめ）」の内容に基づき、制度の概要、仕組み、インセンティブの位置づけ、構成者の役割、コンソーシアムの形態など実務者向けの内容説明・解説が行われました。

Jama

資源回収インセンティブ制度  
説明会

2024年3月

一般社団法人 日本自動車工業会

## 【JAERAより】

2026年4月開始の資源回収インセンティブ制度に向け、JAERAとして2024年度から自動車リサイクル高度化財団の助成を受けた実証事業を行うことになりました。今後、この制度に関する情報などJAERAから会員の皆様にお伝えしていきますので、よろしくお願いたします。



# 千葉県・JARC・JARP・JAERA 自動車リサイクル 適正処理に向けた事業者サポート研修会を開催

# 03

2024年3月25日(月)、京葉自動車工業(千葉県四街道市)の更科工場で自動車リサイクル適正処理に向けた事業者サポート研修会を開催されました。こちらは不適正処理の撲滅への寄与を目的として、自動車リサイクル促進センター(JARC)が中心となり、千葉県環境衛生部ヤード・残土対策課、自動車再資源化協力機構(JARP)、当機構(JAERA)とで連携した取り組みの一環です。今回は新たに解体業を始める方(特に外国人の方)を対象とした研修会という位置づけで開催し、合計8名の参加者が集まりました。

自動車リサイクル法の理解などを深める座学研修に始まり、使用済自動車の解体にあたり適正な処理の手順や方法など実際の作業を見て学ぶ実技研修と丸一日かけたプログラムで行われました。



【座学の様子】

## 【プログラム】

		項目	主な内容
午前	座学	①自動車リサイクル制度概要	制度の目的やリサイクル料金など
		②解体業の許可	許可要件や廃油廃液の保管方法等の安全作業など
		③再資源化業務	フロン類の回収やエアバッグ類の取り扱いなど
午後	実技	①引取工程	フロン類とエアバッグ類の装備有無の確認など
		②フロン類回収工程	回収作業の実演など
		③解体工程	エアバッグ類の取り外し回収や車上作動処理の実演など
		④作業場設備	看板の設置や廃油廃液の保管方法など
	座学	①自動車リサイクルシステム	リサイクルシステムの操作方法など
		②確認テスト	研修内容についての確認テスト

研修会は通訳を交えて行われましたが、参加者が説明に対して真剣に耳を傾ける姿が見られ、充実した研修会となりました。研修後のアンケートでも、「資料はポイントを押さえてあって、わかりやすかったです。座学・実技ともにとっても勉強になりました。」と回答いただきました。

午前中の座学で「解体業の許可」について講義いただいた千葉県庁からも「定期的を開催することで、この研修を新規の解体業の許可要件にすることも検討していきたい」とのコメントもいただきました。

JARCでは今回の研修会を皮切りに、自治体と連携を図りながら事業者向けの研修会などの施策を検討していくとのこと。自動車リサイクル法の遵守と安全かつ適正な処理の普及に一役買うこのような取り組みが、地域社会の環境保全に寄与することが期待されます。



【フロン類回収の説明】



【エアバッグ類回収の説明】

## 第7回クルマのリサイクル作品コンクール表彰式

# 04

(公財)自動車リサイクル促進センター(JARC)が主催する「第7回クルマのリサイクル作品コンクール」の表彰式が3月29日(金)に日本自動車会館くるまプラザ(東京都港区)で開催され、機構から酒井代表が審査員として出席されました。

大人顔負けの標語やポスターが並んだ会場では、子どもたちが緊張の面持ちで佇んでいましたが、いざ表彰を受ける時には喜びから笑顔に包まれていた姿が印象的でした。特に受賞後のインタビューでは、クルマのリサイクルに対する理解や想いがひしひしと伝わり、自動車リサイクルの未来が希望に満ち溢れていると感じる表彰式となりました。



【参加者の皆様】

■クルマのリサイクル作品コンクール：<https://www.jarc.or.jp/contest/> (JARC HP) ■

## (一社)JARAグループ・(株)JARA 総会懇親会

# 05

3月13日(水)、(一社)JARAグループ・(株)JARAの総会懇親会が浅草ビューホテル(東京都台東区)にて開催され、機構からは酒井代表理事、阿部参与が出席されました。

JARAグループ川島理事長、(株)JARA北島会長、矢島社長、経済産業省の原室長、環境省の坂口室長補佐、酒井代表理事のご挨拶の後、日本自動車リサイクル部品協議会の佐藤代表理事の乾杯のご発声を皮切りに239名が一堂に会した会場は参加者同士の会話で賑やかな雰囲気となり、TCR栗原会長の中締めのご挨拶で閉会となりました。



【参加者の皆様】

## (一社)SPN総会懇親会

# 06

(一社)SPNの総会懇親会が、3月27日(水)東京ガーデンパレス(東京都文京区)で開催され、機構から参加された酒井代表理事が乾杯の挨拶を行いました。2023年より一般社団法人として新たな一歩を踏み出してから初の総会懇親会ということで総勢100名の方が集まり、会場は参加者の皆様に大いに盛り上がっていました。



【酒井代表理事 乾杯の挨拶】

## 阿部参与 各支部で講演活動

# 07

昨年9月に仲間に加わった阿部参与による講演活動が機構各支部で行われています。現在も各支部から多くの要請が入っており、既に宮城県、神奈川県で講演が行われました。「資源循環に貢献するリサイクル」というテーマのもと、使用済自動車の発生台数やオークション流通台数、輸出台数など自動車リサイクルに係る現状の解説や分析、カーボンニュートラルや資源回収インセンティブ制度など、これからの自動車リサイクルについて、機構の活動などに触れた内容となっています。参加者から「今後の自動車リサイクルの動向を掴むにあたって、阿部参与の見解が非常に参考になった」、「自社の立ち位置や地域で連携する必要性を改めて考えられた」など大変好評の声が届いております。



【宮城県支部での講演の様子】

# 2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 2月出荷状況と今期累計

# 08

上段：2月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア / ヴィッツ	カローラアクシオ / フィルダ	クラウン HV GWS204	クラウン HV AWS210
16	8	25	1	0	39	0	2	1
67	86	388	7	1	574	14	10	10

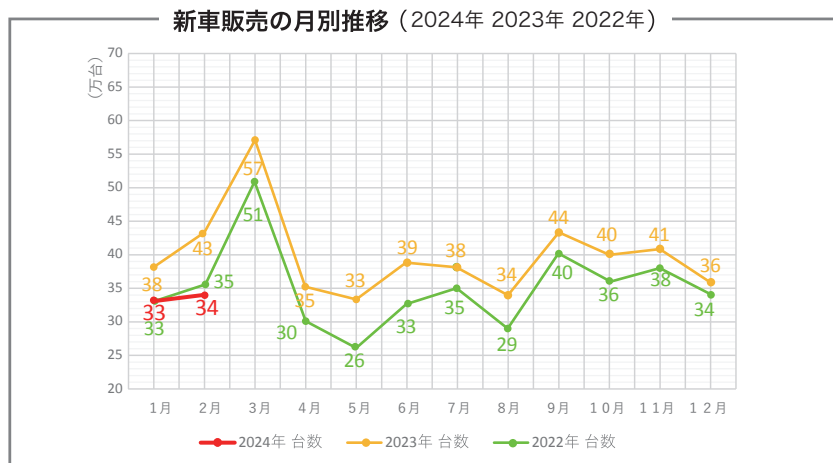
SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ / ブルーリボン	ノア/ヴィクシー / エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品 A-C	合計
0	0	1	4	0	0	0	16	97
11	61	24	12	3	0	1	177	1379

□2022年度の結果はこちら▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

## 2月新車販売・使用済自動車発生台数

# 09

■2024年2月度 新車販売台数 344,816台 (前年同月比80.8%)

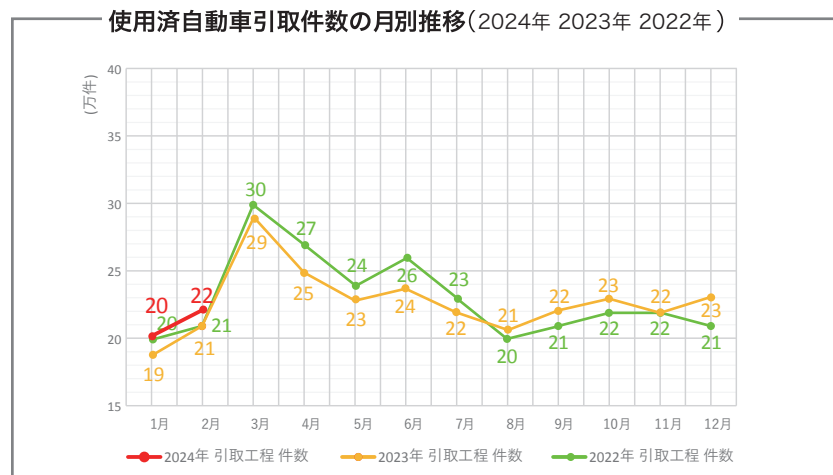


過去の自動車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2024年 (2月まで)	679,692	84.0
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2024年2月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

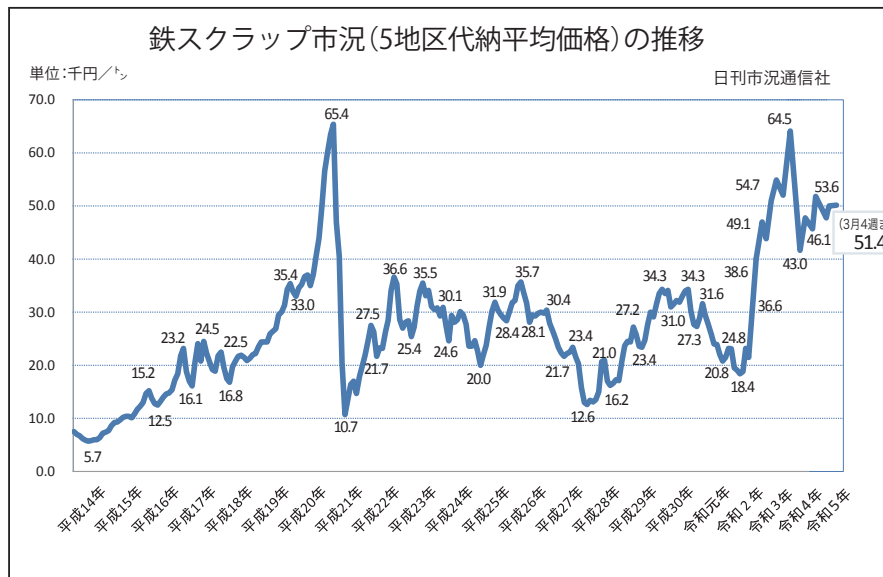


引取件数	
2月	215,437件 (前年同月比104.6%)
フロン回収工程	
2月	191,492件 (前年同月比105.2%)
解体工程	
2月	220,073件 (前年同月比104.6%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター



## 3月第5週(28日)の鉄スクラップ動向



## 3月28日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	51,000～52,500	堅調様子見
	南関東	51,000～52,500	堅調様子見
	浜値	49,500～51,000	堅調様子見
名古屋		49,000～51,500	堅調様子見
関西	大阪	51,000～52,500	様子見
	姫路	51,000～51,500	様子見

## トルコの輸入相場が再び上昇 米HMS1&2成約 CFR387～389ドル

トルコの輸入鉄スクラップ相場は、先週後半にかけて小反発した後、週明けの横ばい推移を経て再び上昇した。トルコでは鋼材需要の低迷や金融政策など弱気材料が依然としてあるものの、足元はメーカーに4～5月の生産に向けた在庫確保のため鉄スクラップ手当を進める動きが見られ、新規成約が続いた。

最新の成約では、今週前半にマルマラ着の米国玉HMS1&2(80:20)がCFR387ドル、シュレッターとボーナス(HS相当)がいずれもCFR407ドルで決まった。また同時期にこれらを上回る価格の成約もあり、イズミル着の米国玉HMS1&2(80:20)がCFR389ドル、シュレッターとボーナス(HS相当)がいずれもCFR409ドルを付けた。先週末の段階で、既にバルト海玉の成約でHMS1&2(80:20)がCFR382ドル、シュレッターとボーナス(HS相当)がCFR402ドルを付けており、米国玉HMS1&2(80:20)の気配は既にCFR386ドル前後に達していたが、これを超える展開となった。

こうした動きを受け、主要指標のひとつ米国玉HMS1&2(80:20)の27日時点の中心値はCFR388～389ドルどころと、週明けからおよそ5ドル上昇した。直近のピークは1月末から2月入りのCFR425ドル弱で、ここからはなお開きがあるものの、2月末～3月上旬にかけての直近の底値CFR375～376ドルどころからは10ドル以上、値を戻している。

### 【関東地区】 軟調様子見のまま3月末迎える

関東市場の鉄スクラップ市況は、軟調様子見のまま3月末を迎え、4月に入る見通しだ。需給双方に先安観が根強いものの、需要家筋は慎重な購入姿勢を維持しているのが現状。関東相場は3月前半に概ね2回、合計1,500円値下がりとなり、海外・輸出相場に対して小幅な値下がりにとどまっている。H2炉前実勢価格は51,000～52,000円中心、高値52,500円見当。H2浜値は49,500～50,000円中心、高値50,500～51,000円見当。

### 【東海地区】 大勢様子見も先安観は払拭されず

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、軟調感が残るものの1週間以上に渡って様子見推移が続いている。3月は、昨年11月以来の値下げが広がり4カ月ぶりに下げ局面となったが、値下げの対応にはメーカー間に差異が生じており、地区主要電炉7社の下げ幅は1,500～2,500円がたとバラつきが見られる。ただ域内電炉では生産が伸び悩む筋もあり、先安観は払拭されない。H2炉前実勢価格は49,000～51,000円中心、高値51,500円見当。

### 【大阪地区】 荷余り感見られず市況は膠着気配

大阪地区の市場は小康状態にある。電炉側に在庫面の不安はないが、荷余り感も出ていないため、市況は膠着気配のまま3月末へ向かっている。ここまで電炉全般は安定した入荷を維持できており、在庫面に不安のないまま4月へ向かう公算が大きい。市中発生量の低迷に加え電炉需要が高水準にあり、荷余り感が生じている様子はない。H2炉前実勢価格は、大阪地区が51,000～52,500円中心、姫路地区が51,000～51,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月28日午後時点のもの)

## — 4月の主な行事予定 —

April

- 4月9日（火）
  - ・ J-FAR(エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり)定例会（WEB）
- 4月10日（水）
  - ・ 第1回 広報部会（WEB）
  - ・ 常任役員会（対面）
- 4月12日（金）
  - ・ J-FAR（資源回収インセンティブ）キックオフミーティング（対面・WEB）

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

## お知らせ

### 自動車解体業許可の更新準備はお済みですか？

今年自動車解体業の許可更新期限を迎えられる方も多いのではないのでしょうか。皆様更新の手続きを忘れないようお気を付けてください！  
皆様ご存じのとおり、自動車解体業許可の更新期間は5年と以下のとおり定められています。

（許可の更新期間）

第4条 法第60条第2項及び第67条第2項の政令で定める期間は、5年とする。

※使用済自動車の再資源化等に関する法律施行令（平成14年政令第389号）

更新時期については自治体から通知など届くことは無いようですが、事業者の方のお話を伺うと皆様期限の3か月前から更新の準備を始めているとのこと。更新に必要な書類は各自治体で定めており、求められる書類も自治体によって若干異なるようですので、更新手続きにあたっては、まず窓口となる自治体のHPなどでご確認ください！

## 編集後記

先日、28年間務めた社員が無事定年退職を迎え、最後の挨拶で「これからも体を大切に、できるだけ長く自分ができる仕事をしていきたい」と話していました。

最近ではWHOが定義した「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」、いわゆる「健康寿命」を延ばすという考え方が強くなっていますが、ただ健康寿命を延ばせば良いという訳ではなく、他の人を助けるなどの社会貢献も大事だと私は思っています。これを、「貢献寿命」とでも言いませんか。

高齢だから何もできない、労わりたいと願うと貢献とはほど遠い世界に見えますが、実はできることは多いのかもしれませんが。社会活動を通じて人と関わると健康寿命が延びたという調査結果が多々あると聞きますし、活動の中での苦勞など多少のストレスがあった方が健康には良いとも言われています。

幸か不幸か、日本は今若い労働人口が減少し人手不足に悩まされています。そのなかで高齢者が貢献できる場は沢山あるように思えます。また、高齢者自身が「若い人や子ども達を応援しよう」など貢献する気持ちを持つことで健康寿命も貢献寿命も延びるはず。です。

私も多少のストレスを抱えつつ、機構の仕事を通して業界の若い人達の役に立てるよう頑張ることで貢献寿命を延ばしていきたいと思えます。

（広報部会長 田村 幸男）